

令和2年度 第1回 北区地域包括支援センター運営協議会議事録

1 日 時：令和2年度8月5日（水） 14時00分～15時30分

2 場 所：北区役所 7階 大会議室

3 出席者：12人（欠席委員1名）、傍聴人なし

4 議 題

(1) 令和元年度 あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）の運営状況について

(2) 介護予防ケアマネジメント対象者が要介護状態となった場合の取り扱いについて
～指定居宅介護支援事業所の選定における確認書について～

(3) 令和2年度 あんしんすこやかセンター事業計画について

(4) 令和2年度 ・あんしんすこやかセンター公募について
・区運営協議会における報告事項の見直しについて

【以下非公開】

(5) 特定事業所へのサービス集中率等について

(6) 地域包括ケアの充実のための事業目標（令和元年度）の評価および地域活動計画（令和2年度）について

5 当日あった主な意見および事務局回答

<あんしんすこやかセンターの公募について>

委 員：（あんしんすこやかセンターの運営法人が）変更になりそうなところはあるのか。

事務局：まだ公募前のため、把握していない。

<令和2年度の次回の区運営協議会について、区運営協議会における報告事項について>

委 員：（あんしんすこやかセンターの運営法人が）変更になるところがあるなら、説明が必要になる。今の状態で、変更がなければ（次回の区運営協議会は）書面開催が良いのでは。

事務局：それでは、変更がなければ次回の区運営協議会は書面での開催の方針へ。また、介護予防ケアマネジメントの対象者が要介護状態となった場合の確認書に関する報告は、不備がなければ市運営協議会でのみの報告とする。

<その他の質疑応答>

委 員：フレイル予防が必要な人にも介護予防が必要な人にも同じ方策を取っている。一緒に扱っているという解釈で良いか。

事務局：それぞれの言葉に定義があるため、センター職員には研修等を通じてその理解の周知を図っている。事業の対象者となる市民に対しては、フレイル予防と介護予防はほぼ同一のものとして取り扱っている。どちらも目指すところは要介護状態とならないことやできる限り遅らせることであり、方策としてもほぼ同じである。

委 員：介護予防教室に参加する人々というのは、フレイルの人もいればフレイル一歩手前の人もいるという理解で良いか。

事務局：その理解で良い。事業対象者に一定の枠を設けてしまうと参加者減につながることから、本市では枠を設けず広い範囲で参加者を募るようにしており、事業の中で参加者個々に合わせた柔軟な対応をしている。

委員：あんしんすこやかセンターから寄せられたコロナ禍に関連した相談等はあったか。

事務局：地域での集いをして良いかという相談が多い。また、集いをするとなった時に、どういう対策を取れば良いかという相談も多い。

委員：神戸市として集いの開催にあたって一定の基準を設けてはいるのか。

事務局：神戸市として設けている基準はあるが、会場を貸し出してくれているところによってもそれぞれ基準を設けているため、一概ではない。

委員：今後開催の方向に進んでいくのか。

事務局：飲食を伴わないものから順次開催の方向である。

委員：オレンジチームに対してどんどんケースを挙げてくるセンターとそうでないところの温度差がある。認知症による困難事例を抱えたままにしているところもあると思われる。そのようなケースの中には、場合によっては認知症ではなく精神障害の方や生活保護等の生活支援を要する事例もあると思われるが、それらを高齢者ということで相談を受け付けているセンターから、対応に苦慮するので困っているという声は聞かれないか。

事務局：まずセンターごとにチームの活用に差異があるということについては、本区、北神共にチームの関わるケースが増えてきているという所感はある。チームを地域ケア会議で紹介し、地域住民にも知ってもらい、チーム員と地域住民との連携の仕組みづくりにも取り組んでいるところもある。精神障害の方については、未受診の段階では認知症か精神障害か判断がつかず、例え精神障害の方であっても初期にはチームに関わっていただくということがあるかと思う。チームと行政との連携を深めて、ケース検討を重ねていきたい。

委員：チームが支援した結果、精神障害だと分かった場合に、つなぎ先がない。センターにつないだ結果対応に苦慮し、困難事例として抱え込んでしまうこともあると思われる。

事務局：あんしんすこやか係がセンターからの相談窓口となっているため、話を聞き、支援の方向性や連携について共に考えていきたい。

委員：オレンジチームがどんなものを教えていただきたい。地域でもそれは知られているのか。認知症か精神障害かの判断がつかない地域住民がおり、対応している民生委員が困っている。あんしんすこやかセンターへの相談を促したが、支援について明確な返事がなかった。

事務局：認知症初期集中支援チームのことを本市ではオレンジチームと呼んでいる。地域で生活する高齢者の中には、認知症の症状がありながらも、医療受診につながらず、今後の生活が困難な状況にある方々がいる。そういった方々への支援について、あんしんすこやかセンターの職員だけでは難しい部分を短期集中的に担う専門チームである。専門チームとして対象者を医療受診につなげ、状態を確認し、対象者の抱える課題を多職種で整理してから、対象者が望む生活や安心できる生活について検討し、あんしんすこやかセンターや関係機関につなぐ役割を持つ。チームによる支援を望む場合は、あんしんすこやかセンターが窓口になる。

委員：神戸市各区にオレンジチームは存在するが、北区は他区と比べてシステムが異なる部分がある。北区のチームは北区内の専門職が認知症コーディネーターやチーム員を担っているので、チームでの支援後の関係機関へのつなぎもスムーズに行える。神戸市は認知症モデル事業を行っているので、チームの出動も多くなる。あんしんすこやかセンターで支援できる事例は従来通りセンターでの支援をお願いしたいが、身寄りがなかったり、身寄りがあっても周囲による支援が難しいような対象者はチームでの支援となるだろう。そういった方々は医療受診にも課題があるため、チーム員が受診同行などを担うこともある。対象者について、チームでの支援にこういう風につなげれば良いんだというやり方が浸透していけばいいと思う。